

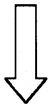


考察： HTLV-1 抗体陽性の妊婦の出産時の臍帯血リンパ球8例中1例にHTLV-1 抗原が検出され、さらに電顕的にウイルス粒子が確認されたことは、HTLV-1 の母子感染において、母乳を介する感染が主たる経路ではあるが、経胎盤感染の可能性があることを示唆している。

この陽性例において、母体末梢血リンパ球が1週間の培養によりウイルス抗原が検出されたのに対し、臍帯血リンパ球では3週間の培養を要したことは、母体からの感染細胞の移行が少数であったものと推測される。このことから、臍帯血リンパ球のウイルス抗原の検出にあたっては、長期間の培養が必要と考えられる。

また8例の妊婦のうち3例はPA法弱陽性、IFA法陰性でありさらに末梢血の培養リンパ球にもウイルス抗原は検出されなかった。これら3例の妊婦がHTLV-1 のキャリアであったか否かは疑問のあるところで、現在ウエスタンブロット法等で検討中である。

今後さらに例数を増やすとともに、血清抗体価とウイルス抗原検出率との関連および他のウイルス感染等の経胎盤感染におよぼす危険因子の解析を行いたい。またHTLV-1 キャリアーの母親から出生した子供の抗体およびウイルス抗原の追跡調査を行っていく予定である。



## 検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約：ALTの原因ウイルスであるHTLV-Iの感染経路としては、夫婦間感染、母子間感染および輸血による感染が知られている。母子感染においては、母乳を介する子供への感染が一条、日野らによって証明されている。今回我々は、HTLV-Iの経胎盤感染の可能性を検討するために、HTLV-I抗体陽性の妊婦8例を対象とし、出産時の臍帯血リンパ球および母体末梢リンパ球培養を行い、ウイルス抗原の検出を行った。その結果、一例の臍帯血リンパ球にウイルス抗原を検出するとともに、電顕的にウイルス粒子を観察した。